

アメリカで育てる

永住や長期滞在の子どもたちの教育のために

INFOE (海外子女教育情報センター)
松本輝彦

第10回

コミュニティ・カレッジから4年制大学へ

-- ヒロ君の挑戦 (2) --

アメリカに住む日本人の子どもたちが多様です。成績優秀で有名大学へ、という高校生ばかりではありません。思春期にちょっと寄り道したり、スポーツに情熱を注いだ高校生でも、ゼロから再スタートして大学を卒業できる。そんな、アメリカだから与えられる「セカンド・チャンス」を生かして、コミュニティ・カレッジ (Community College、以下「カレッジ」) から有名4年制大学への転進学 (transfer) に挑戦するヒロ君のお話です。

ヒロ君がカレッジに通いだして、
2ヶ月あまりが経ちました。

お父さん・お母さんの決断

お父さんとお母さんが、大きな決断をされました。

自宅から車で20分ほど、カレッジから同じく車で10分くらいの所のアパートに間借りをさせ、ヒロ君を引越させました。「経済的には大変だが、ヒロ君を親元から離して生活をさせよう」との、ご両親の決断です。

実は、このアパートは、前回登場したA君 (ヒロ君のカレッジからUCLAにトランスファーした私の教え子) が住んでいます。そのアパートの一部屋に移ったのです。

私も、この引越しには賛成しました。A君に勉強のアドバイスを受けられるし、年齢の近い、日本育ちのA先輩から、いろんな話を聞くことも出来るからです。

受講クラス

今学期は、4科目受講です。

数学のTrig/PreCalは、夏休みに私と約束してAlgebraを復習しておいたのが功を奏して、現在「A」。

Englishは、やはりエッセイが大変。学期も半ばになって、課題が増えてきました。やはり、カレッジ・エッセイの厳しさがわかってきたようです。でも「A」。

Accountingは、将来はビジネス専攻とも考えていて、少し興味があって取ったので、がんばって「A」。

面白いのは日本語。数学と英語がの勉強が大変になるだろうとのことで、Easy「A」を取れるように日本語を受講しました。ヒロ君は中学卒業まで補習校に通っていたので、カレッジの中級レベルの日本語は問題なし。ところが、あまり簡単だと上のクラスに上げられてしまうので、先生には全て英語で話しかけ、日本語の発音もわざと下手(?)にして、簡単ではなく、苦勞して「A」を確保。

「A」を取る勉強と生活

クラスが始まってまだ2ヶ月ですが、セメスター制ですので、もう学期も半分済んでしまいました。全てのクラスで「A」を取る、という目標に向かって邁進しています。

先輩からのアドバイスで、先生に印象良く憶えてもらうために、授業終了後に毎回質問をしています。

ヒロ君は、どちらかと言うと「人付き合いの良い方」です。「友達が出来ると、勉強に影響が出る」と心配したのでしょうか、「学校では、僕、日系人」と、全て英語をしゃべって日本人留学生から遠ざかる作戦に出ています。高校の時の顔見知りに出会っても、挨拶だけで逃げているようです。

朝8時のクラスが終わると、夕方まで図書館に籠もって勉強しているとのこと。勉強は、宿題が多くて、予習・復習まではあまり手が回らないようです。

また、A君との同居が大成功です。学校の先生やクラスの裏(?)情報から、勉強についてのちょっとした質問が出来るのが、大きな支えになっています。

ヒロ君自身のこのような生活態度もプラスとなって、「A」が続いています。

勉強に自信!

一番大きな効果は、勉強だけの生活に入り込め、勉強に対して「やれば出来る」という自信が出てきたことです。心中不安でスタートしたカレッジですが、うまくいっています。

お父さんの「ヒロの顔つきも、生活態度も落ち着いてきた」との言葉が、全てを物語っています。「A」に向かって突進!



ヒロ君奮戦記の第2回目、「オールA」が続いている順調なカレッジ・ライフの滑り出しの報告です。

最近のヒロ君を見ると、何事にも「自信を持つ」のが、いかに大きなパワーになるのか、私自身も勉強させてもらいました。

先日「お父さん、お母さんに感謝しているか?」と聞いたら、感慨深げに「はい、感謝してます」とのことばが返ってきました。ヒロ君をもう6年以上見ていますが、人が変わったように、大人になって来ました。